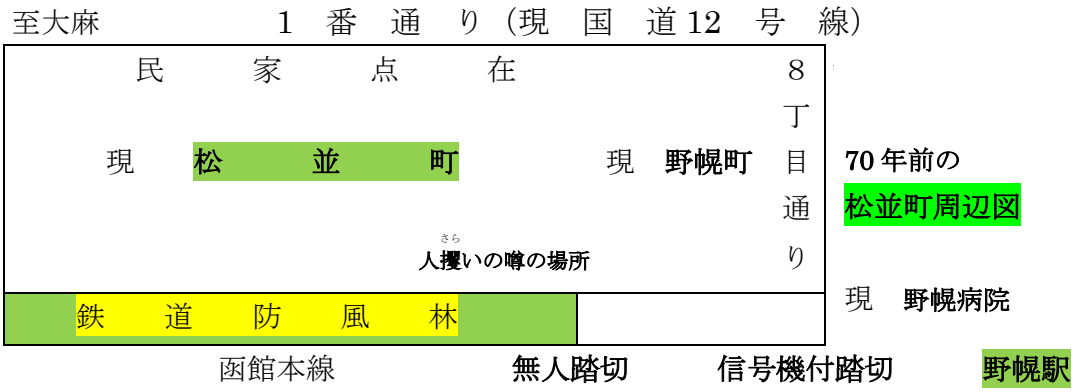
松並町に住んで

１区４班　松浦　武光

１、野幌地区の驚愕の変遷（70 年前の松並町）

私は昭和 20 年（終戦の年、1945 年）に江別第二国民学校〔今の第二小学校〕に入学いたしました。その頃、私の生家は今の若葉町に有りましたので、通学は 2 号線（今の白樺通り）を北上し、無人踏切（今は高架下）を渡り、道なりに右折して野幌病院前の 8 丁目通りに出て通っていました。鉄道防風林は当時から有って「人攫（さら）いが出る」と言う噂があって幼かった私達はとても怖かった記憶があります。

つまり、当時の松並町は一番通り（現 12 号線）に面した数件の民家と函館本線に挟まれた畑地のみでした。



２、生活に便利な松並町

・公共交通機関（JR 駅、バス停など）
・日常生活に必要な店舗（スーパー、コンビニ、など）
・病院（総合病院、専門病院、整体医院など）

松並町には、これらの施設が近くにあり、安心して住める町だと思います。特に高齢化が進んだ現在大変ありがたいことです。大都市札幌にも近く、大自然の原始林も近くにあり、心の安らぎを感じます。

３、すばらしい松並町を永遠に

このようにすばらしく、住みよい松並町を子々孫々まで保ち続け、より発展させていくように願っています。

幼い頃、「向こう三軒両隣り」と言うラジオ放送番組（テレビはまだ無い）が有りました。“遠くの親戚より近くの他人“のことわざ通り、隣近所のお付き合いを大切に、その輪を広げ、町全体が人と人の繋がりを持った温かな松並町にしていきたいものだと思います